

令和7年度 中学年授業改善推進プラン

	児童の課題	改善策
国語 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に注意して、正しく文章を書くこと。 ・登場人物の気持ちなどを、叙述を基に想像すること。 ・漢字を正しく読み書きし、活用すること。 ・相手に伝わりやすくするために、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ・中・終わり」の組み立てで文章を書き、文章のまとまりを意識して書く練習を繰り返し行う。報告文、感想文などそれぞれの文章の構成に気を付けて書くことができるようにする。 ・物語の叙述から、どのような気持ちが捉えられるかを自分で考えたり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れることで、イメージを広げていく読み方ができるようにする。 ・毎日の宿題として漢字ドリルの練習を出し、日々の小テストに繰り返し取り組むことで、正しく漢字が読み書きできるよう指導する。児童が文章を書くときは、既習の漢字を使うように指導する。 ・スピーチなどの練習の際はタブレットの録画機能を活用して、自分の話し方を振り返ることができるようにする。また、朝の会や帰りの会などで、繰り返し話す経験をさせる。その際、話の組み立てに気を付けて、話の中心が相手に伝わる話し方ができるように継続的に取り組ませる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識して、自分の考えを支える理由や事例を明確にして、文章を書くこと。 ・主語と述語との関係を理解すること。 ・ローマ字を正しく読んだりすること。 ・漢字を正確に書き、文や文章の中で使うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く前の話し合いを充実させたり、「だれが・どうする」を明確に記述させるように声掛けをしたりする。日記・詩・俳句・紹介文、感想文、新聞作成など、様々な書く活動を行う。目的に応じた文章を書く学習を積み重ねることで自分の意見とその理由を書けるようにする。また、書いたものを推敲する習慣も付けるようにする。友達の文章を読み、互いの文章の良いところを見付け、伝え合う活動を取り入れる ・タブレット端末でのローマ字入力の練習や、身近なローマ字の言葉を読んだり書いたりする練習をして、復習を重ねることでローマ字を使えるようにする。 ・漢字の復習を定期的に行うとともに、作文を書く際には既習の漢字を使って書くようにする。国語辞典や漢字辞典をすすんで活用し、自分で調べ、積極的に使うようにする。
社会 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区の地域の産業や地域の様子の移り変わりについて地図帳や具体的資料を用いて調べまとめること。 ・地域の生産・販売の様子から疑問を出し合い、学習の問題を見出して、追究し解決していくこと。 ・単元の学習を通して、社会的事象について理解し、自分の考えをもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の特徴に関心を持ち、見学を通して区内の様子を知る。写真や文章資料・地図などを手掛かりに、大田区の特徴を調べる学習を取り入れながら、分かったこと、そこから考えたことをノートやワークシートにまとめる活動を取り入れる。 ・スーパーマーケット見学や出前授業を基に視点を明確にもたせて、学習課題を自分から作る時間を取り入れ、地域の生産や販売の様子を理解させる。 ・工場、消防署や警察署で働く人々の活動について理解するために、単元の中に資料を読み取る時間や実際に見学をする時間を取り入れる。また、学習内容と自身の生活を関連付けて考えさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・工場の仕事の過程や、消防団、警察の仕事について理解すること。 ・地図記号や方位の理解をもとに、土地の様子について地図を読み取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットで調べるだけでなく、具体的なイメージがとらえられるように映像資料を活用して、身近に感じられるようにする。 ・地図帳や各種の具体的資料を活用する機会を増やして情報をまとめる力を身に付けさせる。資料を読み取る視点を明確にして指導する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、自分事として捉え、自分の考えをもつこと。 ・年間を通して47都道府県の名前と位置を覚え、生活の中で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ごうとする人々の活動などの社会的事象と、自分たちの生活を関連付けて課題を設定する。学習問題が解決できるように、教科書や資料、インタビューなど多様な視点で調べ、そこから分かったこと、考えたことを、ノートやワークシートにまとめる取り組みを行う。 ・ゲストティーチャーを招き、その講話を聞くことで、身近に感じられるようにする。 ・授業で都道府県の特徴に触れながら関連する内容を取り上げて、都道府県の名前や位置を想起させるようにする。日本地図のワークシート等で都道府県の名称や位置について継続的に指導する。
算数 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の計算、大きい数のたし算ひき算の計算の仕方について理解し、正しく計算すること。 ・数の大きさや長さ、時間の量感覚などについて具体的にとらえ、意味や計算の仕方について理解すること。 ・数学的思考力が問われる文章問題について考え、解決の仕方を書いたり説明できたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・等分除や包含除の計算が成り立つ場面をイメージしながら問題が解けるように、具体物や図表（ドット図）を活用して、文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を増やす。 ・筆算では繰り上がり・繰り下がりに印を付けるなどして、丁寧に計算する時間を確保する。 ・計算力の定着を図るために、定期的に練習問題に取り組む時間を設定したり、家庭学習でも取り組めるようにしたりする。 ・生活場面の中の巻き尺、時計やストップウォッチなどを使って、実際に長さなどを調べたり、時間を計ったりして、実感をもって理解できるように、経験を積み重ねるようにする。 ・問題を図式化するなど具体的な場面を理解した上で、正しい立式を確かめたり、問題の解決方法を図（線分図）や言葉などを使って説明したりする。また、必要に応じて、練習問題を用意し、文章問題を解いたり、問題を作ったりすることで理解を深めさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数の相対的な大きさについて理解すること。 ・余りを切り上げて答えを求めることができ、その理由を説明すること。 ・3けた+4けた=4けた（繰り上がり3回）の計算すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を活用して、小数の大きさを視覚的に把握できるようにする。小数部分の位を把握し、そろえて比べることができるよう、2つの数字を縦に並べて書くように指導する。また、数直線をつかって、数を表す活動を通して、視覚的にも大小を比較できるようにする。定着を図るために、定期的に練習問題に取り組む時間を確保する。 ・余りがどのような意味を持つのか理解させるため、具体物や図表（ドット図）を活用して、文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を増やす。 ・2けたや3けたのたし算の計算を行い、繰り上がりの方法について確認させる。けたが増えてもたし算のしくみは変わらないことを認識させる。位をそろえて並べられるよう、整数だけでなく、小数の計算も取り入れ、式を筆算のかたちに変換させられるような練習問題を用意し繰り返し解く。
理科 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象へすすんで関わろうとする意欲を高めること。 ・科学的思考・表現力を高めること。 ・着目した自然事象を適切に比較しながら調べ、差異点や共通点を基に、問題を見出したり、結果・考察を発表し、伝え合ったりすること。 ・植物や昆虫の育ち方を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察など体験的な活動や今までの経験などを想起し話し合う活動などを多く取り入れる。 ・自分の考えを実験・観察に生かし、児童に実験の条件や方法を考えさせたり、話し合わせたりして問題解決の能力を少しずつ向上させる。 ・計画的に観察や実験を行い、気付いたことを自分の言葉で書いたり、どのようなまとめ方がよいのか全体で共有したりする。 ・実際に植物や昆虫を育てたり、成長の過程を映像などのICT機器を活用したりして、育ち方を視覚的に捉える。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・虫眼鏡や方位磁針など、観察や実験で使う用具の正しい使い方を定着させること。 ・実験の手順を理解し、児童一人一人が予想を立てられるようにすること。 ・実験の結果を分析して、分かったことをまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習だけでなく、日頃から観察や実験で用いる用具の使い方を適宜指導する。また、デジタル教科書にある「理科用具の使い方」の動画を活用し、説明と実際の動きを照らし合わせながら、使い方を身に付け、実際に使いこなせるように指導する。 ・予想を書く時に、例文を示し、理由を書くように指導する。また、既習の内容や生活の中で似たような経験や体験をしたことがないかについても、想起させるようにする。また、よく書いている児童の予想を取り上げて、よい書き方を示す。 ・日々の学習の中で、実験の際は、自分の意見をもったり、振り返ったりする時間を十分に確保する。また、結果を全体で共有し、どのように分析し、まとめていくかを共有する時間を設ける。
音楽 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの息の使い方とタンギングの仕方を理解し、良い音色で演奏すること。 ・旋律の高さやリズムを理解し、呼吸や発音に気をつけて、自然で無理のない歌い方ができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏やCD音源などを活用して、リコーダーの音色の良さを感じ取らせる。また、友達の音を聴き合いながら演奏することで、息の強さに気を付けてきれいな音色で演奏できるようにする。 ・階名唱の機会を多くもつことで、旋律の音の動きに気付かせ、子音・母音が明瞭で無理のない発声ができるよう気を付けさせる。声の強弱も大切に、響きのあるきれいな声を身に付けられるよう指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現活動において、自分の思いや意図をもち、ふさわしい歌い方や演奏の仕方で行うこと。また、そのために必要な技能を身に付けて、自信をもって発表すること。 ・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付き、曲や演奏のよさを見出し、曲全体を味わって聴くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の楽曲を用い、スタッカートやスラーなどの表現方法に取り組み、表現する楽しさを味わえる場面を多く設定する。思いを実現し、表現するための技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるようにする。表現活動の際には、個からグループ、学級全体と共有し、そのよさを認め合うようにする。 ・学習する曲において、指導の中心となる視点を明確にする。また、曲を聴く活動とともに、中心となる旋律を簡略化した譜例や楽器のイラストなどを用いて可視化し、音楽の構造や作者の思いに気付くようにする。
図工 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって取り組めるよう、素材から自由に発想したり、つくりたいものを思いついたりすること。 ・基本的な用具を正しく使ったり、安全に気を付けながら使用したりすること。 ・作品のよさや面白さを感じ取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材と関わる時間を十分に設け、素材のよさを実感し、つくりたいもののイメージを広げ深められるようにし、自分の作品のイメージをもてるように指導する。 ・活動を始める前に書画カメラや掲示物を使って、正しい使い方を丁寧に説明する。カッターナイフ、金槌や釘など用具を使用する前に、安全な使い方やルールを明示し、きちんと守れているか確認を行う。 ・自分の作品をタブレット端末で撮影して、学級や学年で共有する。自分の作品のよさを見出したり、作品制作の参考にしたりと、制作や鑑賞で活用を行う。 ・自分たちの作品だけでなく、身近な美術品などを鑑賞する時間を十分に設ける。また、友達に自分の作品を語る場を設けることを通して、色や形に対する見方を深め、友達の作品のよさを感じ取る視点を養う。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色の感じを理解すること。 ・用具や材料を安全で適切に使えること。 ・豊かに発想したり、思い付いたことから自分のイメージ、思いを広げたりしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞などの場面で、形や色から連想する感じを取り上げ、友達との感じ方の違いに着目させる。 ・制作の際には、形や色から発想する感じを基に、素材を選ばせたり、工夫させたりする。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、クロムブックや実演を用いて正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度や表したいことによって個別に指導していく。 ・題材のねらいを明確にし、造形的な視点を基に工夫できることや実例を全体で確認する場を設ける。 ・鑑賞の視点として、形や色の感じ、組み合わせ、色の明るさや変化などの造形的な視点に加えて、発想の面白さも取り上げる。 ・イメージを広げるために、別のクラスの児童の参考作品を鑑賞する機会を、単元の途中に設ける。
体育 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって運動に取り組み、めあてを達成するために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場で運動したりすること。 ・器械運動や跳の運動に対して意欲的に取り組むこと。 ・運動に合わせて、規則を工夫したり、作戦を考えたりすること。 ・ボールを投げる運動、投力を高める運動に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域で学習カードを活用し、めあてをもたせる。単元計画を学習カードに記載することで、児童に授業の見通しをもたせ、目指す姿や目標を考えるよう指導する。運動に効果的な場を設定して自分に合った場で運動できるようアドバイスする。活動を終わるときには自分の取り組みを振り返らせるようにする。 ・個人の能力差を考慮してチーム編成を行い、友達同士で認め合う声掛けができるよう、場を工夫する。また、互いにアドバイスし合い、見るポイントを確認できるようにワークシート等を工夫する。 ・ICTを活用し、友達のよいところを見付けたり、手本として真似したりすることで、技のイメージをもたせ、出来ばえを確認する。 ・マットや幅跳びなどの運動では、ICTを活用し、手本となる動きを視覚的に児童が確認することを導入で取り入れ、関心を高めるよう指導する。活動では、タブレットでの撮影を取り入れ、自分の動きや友達の動きを確認し合う時間を設ける。体育館遊びのときは、マットを出して児童が使えるようにする。 ・「ゲーム」の運動領域では、チームや友達と協力して、規則を考えたり、簡単な作戦を考えたりする時間を意図的に設定し、互いの意見を伝え合うようにする。作戦が成功したかどうかをチームで学習カードを活用して振り返り、次の運動につなげていくようにする。 ・遠くに投げることを意識させるために、手だけでなく、腰や肩を使った投げ方のフォームの指導や腰の捻転を意識させる。場の設定を工夫して取り組むようにさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を明らかにして運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場を選んで運動したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元で学習カードを活用し、自分の課題をもたせる。授業の終わりには、自分の運動の様子を振り返らせる。 ・技能ポイントを学習カードや実演などで示し、動きや、意識して運動する体の部分を児童が理解できるようにする。友達と見合う時には、見る視点が分かるようにする。 ・タブレットで動きを録画して自分の動きを振り返ることができるようにする。また、手本となる動画を準備し、児童がいつでもよい動きを確認し、練習に生かせるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを味わえるように規則を工夫すること。 ・勝敗を受け入れられること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の差を考慮し、児童の実態に応じて規則を変えながら、全員が運動の楽しさに触れられるようにする。学級を超えて兄弟チームを作り、勝敗を競わせることで勝負の楽しさを味わわせる。 ・審判を自分たちで行い、公平にルールを守ることができるようにする。
外国語活動 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身の回りのものについて、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにすること。 ・自分のことについて、動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を示しながら話したり、繰り返し音声を聞いたりする活動を取り入れることで、基本的な表現に親しめるようにする。 ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。 ・自分のことを相手に伝えるための工夫を考えたり、工夫（アイコンタクト、ジェスチャーなど）している児童を全体の場で取り上げたりして、相手に伝え合う活動を設定する。ICTを活用し、音声やコミュニケーションの様子を録り、良い手本を提示する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み方を聞いた際に、どの文字であるか分かること。 ・自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うこと。 ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音に関するチャンツを聞いたり歌ったり、帯で文字に関する活動を入れたり、カードを操作する活動を通して、文字に親しませる。 ・授業の始まりの挨拶や歌をパターン化したり、既習事項を活かしてコミュニケーションを図る活動を計画的に取り入れる。 ・教師とALTでよいモデルを示したり、ロールモデルとなる児童がみんなの前で話したりすることで、児童自身がイメージをもって活動に取り組めるようにする。 ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。